

2020年4月開講

上智大学
社会人プログラム
PROFESSIONAL
STUDIES

SOPHIA PROFESSIONAL STUDIES



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

Sophia — Bringing the World Together



多様なバックグラウンドを持つ人々が集い、
創造性に溢れ、国際通用性を有する“智”を探究する

社 会人に向けた新プログラム、上智大学プロフェッショナル・スタディーズは、非常にユニークな“学びの場”です。

講座で提供される題材から何を引き出し、何を蓄え、何を産み出すかは、個人の創造力にかかっています。この訓練こそが、智の創造性への理解につながっていきます。昨今の社会で問われるイノベーションを生む力。それは卓越した専門性だけでは成し得ません。イノベーションに対する着想力、デザイン力は、創造性のある教養から導き出されます。また、これからの私たちが身を置く場所は、内外を問わずグローバル社会。そこで問われる資質とは、「国際通用性のある“智”を備えていること」と考えます。このことは人間関係の根本である信頼の礎の具備を意味します。

社会の変革期にあって、個人も組織も、また社会も学び続ける時代に、常に自分を発信し続け、組織の新しい展開、そして、これからの社会のデザインに貢献する。そうした高い志を持つリーダーのための学びのプログラムを、実業界との議論や対話の場を構築することで、共に開発、運用していきます。

現代社会が備えるべき智とは？ …このことを永遠に問い続ける新しい仕掛けです。



上智大学長 嚙道 佳明

日本社会が持つ課題とグローバル社会の変革

グローバル市民・人材像の変化
グローバル×高度情報化社会の到来
個人・組織が学び続ける時代

価値・倫理が変わる時代
信念、理念が問われる時代

国際通用性

変革の時代に 社会が備えるべき“智”を再考

創造性

国際通用性を持つ教養

人間性の陶冶
多様性社会の真の理解
グローバル社会を俯瞰する視野
グローバル・ローカルの双方向視点
歴史と宗教が示唆する世界理解
国際的視点から見た日本の理解と発信
交渉力
など

創造性を発揮する教養

信念、理念、倫理の創出
価値の創造
イノベーションへの着想
課題へのアプローチ法の導出
構想とデザイン
社会展望力
論理的思考、批判的思考
など

■ 上智大学プロフェッショナル・スタディーズとは

「上智大学プロフェッショナル・スタディーズ」は、実業界と本学が一体となって産学協働の学びの場を創成する新たな試みです。アドバイザーパートナーとなる企業会員およびスタンダード企業会員、そして、個人の受講希望者も募り、国際通用性と創造性をテーマにした社会人の学びの場を提供します。

プログラムは、国際通用性を高める「教養講座」、世界水準のESG投資や交渉学、国際会計など、専門性のある講座が揃う「スペシャリスト養成講座」、各分野の専門家や著名人による「スペシャルトーク」という3本の軸で展開します。本学の教員、名誉教授を中心に各講座のコーディネーションを行い、学内外からの講師陣を配置。ビジネススキルの向上とは一線を画し、また単なる学術的な講義の提供でもない、新たな学びの場として、新しい社会、ビジネスの創造に向けた革新的な着想を引き出す工夫を加えた講座を展開します。

都心・四谷キャンパスの立地を生かし展開される本プログラムでは、第一線で活躍するビジネスパーソンや、次代を担う若手のリーダー候補者が業種や職種を超えて集い、多角的な議論を展開します。本学は実業界とともに、「変革の時代に社会が備えるべき智とは？」という難題に挑むために、従来とは全く異なるかたちでの産学連携プロジェクトを通じ、新たな学びの場を創生します。

■ 講座構成・講座数

春学期・秋学期に分け、平日15:30～17:00、18:30～20:00、土曜日の日中に開講

※一部講座は、これらの時間区分によらず開講する場合があります。詳細はWebサイトにてご確認ください。

1講座全6回 | 各回90分 | 年間31講座

上智大学ならではの社会の切り取り方で、多様性のある国際社会において信頼を獲得し、同時にイノベーションへの着想や新しい価値の創造を導く講座群を配置。

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

P.03～13

講座群

[人間の本质と倫理、哲学 P.03](#)

[歴史、宗教に学ぶ世界の俯瞰 P.04](#)

[グローバルな視野とローカルの視点 P.06](#)

[良質な社会に向けた責任とアクション P.08](#)

[科学から読み解く社会像 P.11](#)

[交渉のための論理と批判 P.12](#)

スペシャリスト
養成講座

P.13～14

1講座全8回 | 各回90分 |

年間6講座予定

国際性、社会貢献、コミュニケーション力といった上智大学の強みを反映させ、現代社会の課題に対して、一定の水準に到達できる専門性のある講座を配置。

社会展望力を
醸成する
スペシャルトーク
P.14

年間6回開催予定

開催内容はWebサイトにて随時公表
混迷を続ける社会のグローバル化に焦点を当て、グローバル経済の動向、国際関係の行方、グローバルリスクなどの喫緊の課題を取り上げ、各分野の専門家や著名人を招き紐解きます。

■ 参画・受講会員区分

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員
- ③個人会員

※アドバイザーパートナー・スタンダード企業会員特典については、プロフェッショナル・スタディーズ事務局までお問合せください。

■ 参画・受講申込方法

- ①アドバイザーパートナー企業会員
- ②スタンダード企業会員

として参画を希望される場合

→プロフェッショナル・スタディーズ事務局
(学校法人上智学院 経営企画グループ内)
TEL: 03-3238-4617
E-MAIL: prostudies-co@sophia.ac.jp
までご連絡ください。

- ③個人会員として受講を希望される場合

→プロフェッショナル・スタディーズのWeb
サイトより申込を受け付けます。申込方法
や開講スケジュール、受講料等、詳細は
Webサイトにてご確認ください。
<https://www.sophia-professionalstudies.jp/>

■ 参画・受講料

- ①アドバイザーパートナー企業会員
メンバーシップ料: 500万円 / 2年(税込)

- ②スタンダード企業会員
メンバーシップ料: 100万円 / 2年(税込)

- ③個人会員
・国際通用性、創造性を導く教養講座
1講座: 10万円(税込)
・スペシャリスト養成講座
1講座: 15万円(税込)
・社会展望力を醸成するスペシャルトーク

※開催回毎に受講料が異なりますので、Webサイトにてご確認ください。

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

**人間の本质と
倫理、哲学**

講座
番号 **1212 グローバル化と人間学**

～「他者のために、他者とともに」生きる世界に向かって～

グローバル化と世俗化が著しく進行する現代社会において、私たちは自分らしい生き方を求めながらも、日々の生活に追われて人生の羅針盤を見失っているように思われます。いったい世界はどこに向かい、私たちは何を支えとしているのでしょうか。多様化したグローバル社会だからこそ、国際人としての教養と倫理観が必要であり、隣人への愛の深さが問われています。上智大学は、キリスト教精神に基づく人間教育としての人間学を重要な科目と位置づけ、「他者のために、他者とともに」をモットーに掲げています。本講座では、人間のあり方や他者との関わりについて、さらに地球環境や貧困・格差の問題を視野に入れた、イエズス会士を含む複数の講師によるユニークな講義を展開します。「この世の最大の不幸は、貧しさや病気ではありません。誰からも自分は必要とされていないと感じることです。」マザーテレサの言葉です。孤立、喪失、分断などの言葉で象徴される現代社会を正しく見つめ、他者に寄り添いつつ主体的に生きる叡智のありかを探索する学びの場となることを願っています。

各回の講義テーマ

- 第1回：人間の尊厳とキリスト教
- 第2回：グローバル教育とイエズス会学校
- 第3回：教皇フランシスコの教えと世界観
- 第4回：地球環境問題に見る「内なる環境」と「外なる環境」のつながり
- 第5回：マザーテレサのまなざし
- 第6回：Option for the Poor—米国でのクリスト・レイ・スクールの試み

講座
番号 **1213 グローバリゼーションの哲学思想**

～その基盤と根本的課題～

グローバリゼーションをめぐる世界の急激な変動によって、21世紀の現代ではもはや、わずかに一世代前の政治や軍事、経済の方法や見識すら通じなくなっているように思われます。グローバル化する世界は何を基盤としてどこへ向かうとしているのでしょうか。世界観がめまぐるしく変化する時代だからこそ、われわれは骨太な羅針盤を確保して、移り変わる表象文化の方向をしっかりと見据えておかなければなりません。さもないと個人も社会も、目の前の表面的な事実とその対応策に振り回されるだけになってしまうでしょう。この講座では理論的な総論だけでなく、世界の各地域と各分野にわたる具体的な各論を扱い、各分野について日本を代表する識者を招いて、質疑応答を交えつつ一緒に考えていきたいと思います。いずれの問題においても、変化する現実の根本にある人間観、世界観を見直すことによって、グローバリゼーションの表層に飲み込まれない、構築的視座と先見の明を確保することを目指します。

各回の講義テーマ ※ 講義テーマの順番は変更の可能性があります。

- 第1回：総論「グローバリゼーションの思想—グローバリズムとローカリズム」
- 第2回：各論「アフリカ圏の国際協力とグローバリゼーション—その変動・基盤・将来」
- 第3回：各論「ヨーロッパの人権問題とグローバリゼーション—その変動・基盤・将来」
- 第4回：各論「アジア圏の医療環境とグローバリゼーション—その変動・基盤・将来」
- 第5回：各論「企業理念の問題とグローバリゼーション—その変動・基盤・将来」
- 第6回：総論「グローバリゼーションの哲学—人間観と自由観の選択の可能性」

講座
番号 **1111 身体知の実践**

～ソマティックな人間観に依拠して～

身体をテーマ化することの現代的意義について、現代社会論の文脈で議論することから本講座はスタートします。現代社会やマスメディアを席卷する身体をめぐる様々な社会現象がどのような問題性を孕み、その結果どのような身体観を人々にもたらすのかを探ることでその特性を捉えます。社会的に築かれた現代的身体観こそが、その延長としての世界構築の枠組となり、それが科学技術優先主義や経済合理性によって牽引されて今日に至るのです。この文明化の過程では機械的合理性がもてはやされ、一方でないがしろにされてきたのは「身体知」「身体性」や「内なる身体（ソーマ）」への配慮です。多様な職業的背景をもった講師陣は、それぞれ固有の身体性やソマティックなワークを実践しています。参加者全員が体験する参加型の講座を通して、身体知の存在を肌で感じ、理解し、その感覚経験がより良き世界の構築にどのように活かせるのかを学ぶことになります。混迷する時代であることが、かえって本講座の存在意義となるのです。

各回の講義テーマ

- 第1回：なぜ「身体」を問うのか
- 第2回：東洋的身体技法に学ぶ
- 第3回：ソマティック教育の展開
- 第4回：ソマティック禅の実践
- 第5回：コミュニケーションとしてのバイオダンス（生命のダンス）
- 第6回：「ソマティック」の理論的世界

担当コーディネーター

上智大学 神学部 神学科
教授

高山 貞美



予定講師陣

- 望月 伸一郎（栄光学園中学校・高等学校 校長）
- ホアン・アイダル（上智大学教授、イエズス会司祭）
- 吉川 まみ（上智大学准教授）
- 松村 康平（広島学院中学校・高等学校 教諭、東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻）
- 高山 貞美（上智大学教授）

担当コーディネーター

上智大学 文学部 哲学科
教授

大橋 容一郎



予定講師陣

- 三原 朝彦（衆議院議員、自民党国際協力調査会会長、日本・アフリカ連合（AU）友好議員連盟会長代行）
- 加藤 泰史（一橋大学教授、日本哲学会会長）
- 榊原 洋一（お茶の水女子大学名誉教授、日本こども学会理事長、CRN所長）
- 吉田 幸司（クロス・フィロソフィーズ株式会社 代表取締役社長、哲学シンキング研究所センター長）
- 大橋 容一郎（日本カント協会会長、上智大学教授）

担当コーディネーター

上智大学 文学部 保健体育研究室
特別契約教授

鈴木 守



予定講師陣

- 村川 治彦（関西大学教授）
- 吉田 美和子（上智大学准教授）
- 長谷川 智（山伏、上智大学非常勤講師）
- 内田 桂子（国際ビオダンス連盟公認ファシリテーター）
- 藤田 一照（曹洞宗僧侶）
- 鈴木 守（上智大学特別契約教授）

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

**人間の本质と
倫理、哲学**

講座番号 **1211 アフリカの智に学ぶ**

～サハラ以南アフリカの慣習や文化から～

- 1) 「中西部アフリカの民話や慣習に見る紛争解決の知恵」
特に日本の民話や慣習との比較から、罪や裁きに関する考え方の違い、寛容さやユーモアなど、人間関係を円滑にするアフリカの智慧を学びます。
- 2) 「民話や文学に見る、アフリカの過去と現在」
アフリカの青少年は今、どのような読書・メディア環境にいるのか、どのような民話や文学を読んでいるのかを知り、今後益々活発化することが予想される日本とアフリカの経済・文化交流のあり方の追求につなげます。
- 3) 「中西部アフリカの宗教や道徳と、現代社会の諸問題」
現地で宗教や哲学、社会学を講ずる講師との対話を通して、アフリカの伝統的な宗教や哲学が、現代社会の諸問題にどのように向き合い、平和構築の道を探っているのかを考えます。
- 4) 「音楽と踊りに見るアフリカの人々の精神性」
アフリカの人々にとって、音楽や踊りは生活に欠かせないものです。宗教や思想、歴史と密接に繋がる音楽や踊りを通して、アフリカの人々の深い精神性について学びます。
- 5) 「映画に表現されるアフリカの過去と現在、そして未来への希望」
映画の舞台としてのアフリカ、アフリカを表現するものとしての映画。映像を通して伝えられるアフリカの叡智や人々の生活を学ぶとともに、新たな文化発信のあり方を見出していきます。
- 6) 「アフリカの智に学ぶ共生社会のあり方」
アフリカの人々の文化や智慧を知ることは、現代社会における日本とアフリカの政治経済事情の理解や交流にどのように生かされるのか、その意義や展望を考えます。

各回の講義テーマ

- 第1回：中西部アフリカの民話や慣習に見る紛争解決の知恵
第2回：民話や文学に見る、アフリカの過去と現在
第3回：中西部アフリカの宗教や道徳と、現代社会の諸問題
第4回：音楽と踊りに見るアフリカの人々の精神性
第5回：映画に表現されるアフリカの過去と現在、そして未来への希望
第6回：アフリカの智に学ぶ共生社会のあり方

担当コーディネーター

上智大学 文学部 フランス文学科
教授

永井 敦子



**ATSUKO
NAGAI**

上智大学 グローバル教育センター
特任助教

山崎 瑛莉



**ERI
YAMAZAKI**

予定講師陣

- 村田 はるせ (アフリカ文学研究者)
- 永井 敦子 (上智大学教授)
- 山崎 瑛莉 (上智大学特任助教)

**歴史、宗教に学ぶ
世界の俯瞰**

講座番号 **1222 グローバル組織が直面する文化摩擦とその克服**

～ローマ・カトリック教会の世界伝道の歴史に学ぶ～

長い歴史を経て、今も存続しているどんな大組織も最初の姿のままで今に至っているわけではないでしょう。たくさんの挑戦や難題に直面して、自己変革や適応を経ていまの姿になっていると思います。2千年の歴史を持つローマ・カトリック教会もその例にもれず、1世紀から現代にいたるまで世界のすみずみまで出かけていきましたが、現地の文化と摩擦を引き起こしたり、政治にまき込まれたり、内部分裂の危機も味わい、困難だらけの歴史でした。初期のギリシャ世界、ベルジャ、インド、中国、南米、日本などでの伝道の苦労も大きなものでした。しかし、今なお、根本のアイデンティティを中核として維持し、世界のすみずみで存在する世界宗教として続き、信徒数も増えています。本講座では、教会や宣教師が出会った困難やそれへの対処の工夫の歴史を見つめることにより、種々の分野でグローバルに活躍する方々に発展的な学びが得られるようにと願っています。

各回の講義テーマ

- 第1回：[序論] 仏教の東漸(宗教の変容)と緩やかな一致、キリスト教が受けたギリシャ哲学の影響(教義の発展)、カトリックの組織・布教・養成システム
第2回：ケルトと多神教的カトリック
第3回：女神信仰・聖母信心と聖人たち
第4回：南米のミッシン(と解放の神学)
第5回：中国大陸に入ったキリスト教(景教、フランシスコ会、イエズス会、プロテスタント)、7世紀長安の景教、13世紀モンゴルの景教とカトリック、17世紀イエズス会(マテオ・リッチたち)、近現代
第6回：日本に入ったキリスト教、キリシタン時代(武士・茶人・キリシタン・高山右近)、潜伏キリシタンと教会群

担当コーディネーター

上智大学 名誉教授
イエズス会 日本管区長補佐

山岡 三治



**SANJI
YAMAGUCHI**

予定講師陣

- ホアン・アイダル (上智大学教授)
- 阿部 伸麻呂 (上智大学非常勤講師)
- レンジ・デルカ (カトリックイエズス会日本管区長)
- 山岡 三治 (上智大学名誉教授)

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

歴史、宗教に学ぶ
世界の俯瞰

講座
番号 1221 世界最小国バチカンから世界最大級の影響力を読み解く
～教皇庁の歴史と外交から～

2019年11月、バチカン市国元首であり、カトリック教会の最高指導者としてしられるローマ法王フランシスコが来日します。1983年ヨハネ・パウロ二世の来日以来39年ぶりの法王来日に、カトリック教会関係者ばかりでなく、日本政府や各界関係者の熱い視線が注がれています。なぜローマ法王はこれほどの注目を世界中から集めるのか。キリスト教の歴史2000年にわたって繰り広げられてきたローマ法王と社会の関係から現代人が学ぶことは計り知れなく大きいことと思います。法王が居住する世界最小国家バチカンは、歴史および文化のみならず、現在では法王外交とよばれる特別な方法で世界にかかわりをもっています。現代の国家においてバチカンほど世界の注目をあびる例は他にありません。その最小国家の実力の虚実、その影響力を、バチカンにかかわりの深い識者に語っていただき、日本人としての理解を深めたいと思います。昨今では、日本の諸企業がバチカンとの連携で国際的なプロジェクトを立ち上げており、ビジネス・チャンスとしてのバチカンにも期待がかかっています。「バチカンを知って、世界を知る。」将来ある日本の企業人として是非とも深めていただきたいテーマです。各回にバチカン関係の識者を講師に招く輪講形式でおこないます。

三つの柱 1.バチカンという歴史と現代 2.世界三大情報収集機関として 3.バチカンに蓄積された情報：バチカン博物館・図書館・文書館(Museum, Library, Archives)個別テーマとしてはバチカンの外交、バチカン法王庁の組織と歴史、バチカンと日本バチカンの現代的問題 など

各回の講義テーマ

- 第1回：教会法学から見たバチカンとローマ法王
- 第2回：大使としてかわったバチカン外交とローマ法王
- 第3回：ローマカトリック教会の外交（ローマ法王を迎えた日本とのかかわり）
- 第4回：世界の政治情勢から読み解くバチカン外交とローマ法王
- 第5回：ローマ法王の歴史にみるバチカンの役割
- 第6回：バチカンの記憶（機密文書館、図書館、民俗博物館の役割と法王外交）

講座
番号 1121 日本文化のダイバーシティ

昨今またでは“日本らしい”という言葉をとがめられ耳にします。その言葉は時に、日本には古来から特有のすぐれた文化があり、それを忘れてはならないという危機意識をにじませる調子であったりしますが、その問題意識は果たして正しいのでしょうか。実のところ日本文化は度量が広く、これまで多くの外来の文化や思潮を取り込みながら豊かな自国の文化を形成して来たものであり、その意味で昔から多種多様な顔をもっていたのではないのでしょうか。つまり、“日本らしい”ということとは、多様な文化を有するという意味なのではないのでしょうか。この講座では、これまで日本文化が吸収して来たものを具体的に例示しながら、日本文化の多様性を考えようと思います。

各回の講義テーマ

- 第1回：日本文化の特質
- 第2回：日本思想の背後にあるもの—儒教との関わり
- 第3回：日本思想の華—武士道とは
- 第4回：日本人の美意識—南画の美
- 第5回：日本文化に見る中国の影響—日本漢詩
- 第6回：日本らしさを考える—総括として

講座
番号 1123 現代の東南アジア：

各国の指導者を通して考える歴史・政治・社会

東南アジアは11の国から構成されており、近年、経済成長の著しい地域です。地域の呼び名としては「東南アジア」と一括されていますが、実は歴史面でも、宗教の点でも、言語や民族からみても、きわめて多様な性格を持った地域です。タイをのぞく東南アジア地域は、かつて欧米の植民地となりましたが、その宗主国はポルトガル、スペイン、英国、フランス、米国というように多様でした。

この講座では、東南アジアの6カ国（フィリピン、インドネシア、シンガポール、マレーシア、ミャンマー、ベトナム）をとりあげ、それぞれの国の国民的指導者について、その生い立ち、指導者になるまでの道のり、指導者となった後の政策などを検討しながら、植民地からの独立、独立後の新しい国作り、日本との関係、さらに現在にいたるまでにたどってきた歴史を学びます。

各回の講義テーマ ※ 講義テーマの順番は変更の可能性があります。

- 第1回：フィリピン／フェルディナンド・マルコス(1917-1989)
- 第2回：インドネシア／スカルノ(1901-1970)
- 第3回：シンガポール／リー・クワン・ユー(1923-2015)
- 第4回：マレーシア／マハティール(1925-)
- 第5回：ミャンマー／アウン・サン(1915-1947)
- 第6回：ベトナム／ホー・チ・ミン(1890-1969)

担当コーディネーター

上智大学 文学部 史学科
教授

川村 信三



予定講師陣

- 菊池 功(カトリック東京大司教区長 大司教)
- 菅原 裕二(法王庁立グレゴリアン大学教授)
- 上野 景文(元駐バチカン全権大使)
- 藤崎 衛(上智大学准教授)
- 松本 佐保(名古屋市立大学教授)
- 川村 信三(上智大学教授)

担当コーディネーター

上智大学 文学部 国文学科
教授

長尾 直茂



予定講師陣

- 長尾 直茂(上智大学教授)

担当コーディネーター

上智大学
名誉教授

寺田 勇文



予定講師陣

- 片山 裕(神戸大学名誉教授)
 - 福武 慎太郎(上智大学教授)
 - 岩崎 育夫(アジア研究者)
 - 久志本 裕子(上智大学准教授)
 - 根本 敬(上智大学教授)
 - 坪井 善明(早稲田大学名誉教授)
 - 寺田 勇文(上智大学名誉教授)
- ※その他、複数名の講師が登場予定

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

**歴史、宗教に学ぶ
世界の俯瞰**

講座
番号 **1122 グローバル・ヒストリーズ：
世界のつながりを紐解く歴史観**

近年歴史学の分野で注目されているグローバル・ヒストリーの視点を用いて、広域に影響を及ぼした歴史的現象や事例について考察します。グローバル・ヒストリーの特徴は、一国史の枠組みにとらわれず、国境を越えて移動するモノ・人・思想などを研究対象とすることで、地域・世界の「つながり」を歴史的に明らかにしていくプロセスにあります。この歴史学的探求は、単に過去を理解することではなく、私たちが生きる現代との「つながり」を見いだすプロセスでもあります。今回の講義では、ヨーロッパ、アフリカ、南北アメリカ、アジア・太平洋地域などを舞台とし、それぞれの地域の専門家が越境的テーマ（例：環境、移民、ジェンダー、衣食）をグローバル・ヒストリーの視点から読み解いていきます。さらには、そのアプローチを現代社会の課題にどのように応用できるかについても考えていきます。

各回の講義テーマ

- 第1回：移動からみるグローバル・ヒストリー：移民とコーヒー
- 第2回：環境から問い直すグローバル・ヒストリー
- 第3回：グローバルイシューとしての水：エジプトのアアシス村から
- 第4回：宗教からみるグローバル・ヒストリー：女性宣教師の活動から
- 第5回：近代女子教育から捉えるグローバル・ヒストリー
- 第6回：グローバル・ファッション：アフリカプリントの物語

担当コーディネーター

上智大学 外国語学部 英語学科
准教授

飯島 真里子



予定講師陣

- 小塩 和人（上智大学教授）
- 岩崎 えり奈（上智大学教授）
- 石井 紀子（上智大学教授）
- 佐々木 一恵（法政大学教授）
- 杉浦 未樹（法政大学教授）
- 飯島 真里子（上智大学准教授）

**グローバルな視野と
ローカルの視点**

講座
番号 **1131 最前線から見た中国
～「等身大」の中国を知る～**

今日のビジネスにおいて中国についての知識は必要不可欠なものとなっています。しかし、中国は時時刻刻と変化し続けており、数年前の「常識」がもはや通じないなど、今の中国を正しく理解することは実はそれほど簡単なことではありません。本講座では、今中国で何が起きているのか、中国は世界で何をしているのか、中国や日本の政治、経済、外交、安全保障、国際関係の最先端の研究者と第一線の実務家を講師として、アカデミックとプロフェッショナルの双方の視点から、ダイナミックに変化している中国の今に迫ります。コーディネーター教員や各分野を代表する講師陣による講義と質疑応答で進める輪講形式の講座です。講義の理解を深めるとともに最大限の成果を得られるよう、各回の担当講師の講義内容に関連する参考文献や各種資料を事前に紹介する予定です。

各回の講義テーマ

- 第1回：中国理解のために
- 第2回：「米中経済戦争」と日本の対応
- 第3回：台湾新政権下での中台関係と日本
- 第4回：グローバル大国中国一どのように向き合うか？
- 第5回：戦後アジアの中の日本と中国
- 第6回：21世紀の課題（安全保障の観点から）

担当コーディネーター

上智大学 総合グローバル学部 総合グローバル学科
教授

渡辺 紫乃



予定講師陣

- 大橋 英夫（専修大学教授）
- 毛里 和子（早稲田大学名誉教授）
- 宮城 大蔵（上智大学教授）
- 荒木 淳一（航空自衛隊元空将）
- 渡辺 紫乃（上智大学教授）
- ※その他、実務家の講師が登壇予定

講座
番号 **1132 グローバルリスクの実際と行方**

グローバル化は経済成長と世界のフラット化に貢献したとされる半面、激しい不確実性とリスクの顕在化をもたらしました。リーマン・ショックのような世界経済危機のリスク、戦争や武力衝突につながりかねない地政学的リスク、新たな冷戦が懸念される米中覇権競争・貿易紛争、ポピュリズムなどから目が離せません。企業や個人のレベルでも、リスク対策が問われます。グローバルリスクに対処する活動を担った元外務省首脳、元財務相首脳をはじめ、経団連幹部、元自動車メーカー会長、元メガバンク首脳、外資との交渉経験豊富なコンサルタント、M&A創業者の中から講師を招き、日本広報学会理事を務める新聞学科教員も講師として参加します。危機管理広報をはじめ民間におけるリスク対処など、実践的な視点をふんだんに取り入れつつ学んでいきます。質問や討議の時間を確保し、参加者のみなさんのご要望に沿うよう工夫したいと思います。

各回の講義テーマ

- 第1回：揺らぐ世界と日本
- 第2回：グローバル金融と日本
- 第3回：グローバルリスクの中の日本経済
- 第4回：自動車メーカーとグローバルリスク
- 第5回：外資との交渉経験と知恵
- 第6回：危機管理広報の最新知識

担当コーディネーター

上智大学 文学部 新聞学科
教授

小此木 潔



予定講師陣

- 池 史彦（本田技研工業株式会社元代表取締役会長）
- 大蔵 八郎（市川総合研究所代表）
- 元外務省首脳
- 元財務省首脳
- 元メガバンク首脳
- 国枝 智樹（上智大学准教授）
- 小此木 潔（上智大学教授）

グローバルな視野と ローカルな視点

講座番号 1232 アフリカのいまを知る

～ステレオタイプを越えて～

21世紀に入って以来、サハラ以南のアフリカに対する認識はいくらか変わってはきているかもしれませんが、従来から存在した貧困や感染症、政治的不安定の問題は、世界全体の問題としてとらえられるようになり、援助のあり方もドナー側の一方的な「上から目線」のアプローチは見直されてきています。また、資源等を原動力とする経済成長や、世界に残された最後の巨大市場といった可能性に注目が集まり、アフリカの肯定的な側面がクローズアップされてきました。こうした傾向は、従来からの画一的なアフリカ認識を覆す意味では望ましいものといえるでしょう。しかしながら、上述の様々な問題が具体的にどのようなかたちで、どの程度の規模で生じており、それがどのように世界と結びついているのか、実感の持てない人も少なくないと思います。そこで本講座では、独立後の現代史、政治、開発、ビジネス、保健医療、環境、ジェンダーといった分野ごとに、こんにちのアフリカの具体的な状況と課題を明らかにしていきます。

各回の講義テーマ

- 第1回：アフリカはいまどこにいるのか？—独立後の歴史から考える
- 第2回：アフリカ・ジェンダー研究の展開
- 第3回：サブサハラ・アフリカの保健・医療制度—なぜ「公平」なアクセスが必要か
- 第4回：アフリカの森は誰のもの？—地球規模課題と地域住民
- 第5回：未定
- 第6回：未定

講座番号 1234 歴史と理論で読み解く国際政治情勢

ポスト冷戦期も30年を経て、国際政治の堅い構造はすっかり流動化してしまいました。トランプ政権の誕生、EUの弱体化、米中の冷戦を思わせる対立の激化、中東の終りの見えない紛争など、国際関係は脈絡の見えにくいものになりました。こういう歴史的に見ても極めて大きな変動は、歴史的な背景とキー概念なしには明確に捉えることができません。この講座では、国際政治の長期的、マクロのトピックを取り上げ、講義、討論を組み合わせ、普段あまり意識することのない世界の動向について想像力を生き生きと働かせられるようになることを目指します。討論を通じて、経済と安全保障、あるいは国内政治経済と国際関係のインターフェースについての洞察力を養います。

各回の講義テーマ

- 第1回：グローバル・ガバナンスとは何か
- 第2回：冷戦40年が世界をどう変えた
- 第3回：米中対立と「ツジジデス」の罫
- 第4回：帝国と主権国家
- 第5回：イスラム世界と世俗の国際政治
- 第6回：グローバル化とポピュリズムの政治

講座番号 1233 現代中東・イスラーム諸国の政治と宗教

～歴史的視点から現代を理解する～

本講座では、現代の中東・イスラーム諸国でおこっている政治と宗教に関する問題を、歴史的背景を重視しながら考えていきます。まず、預言者ムハンマドが建設した国家を、イスラーム国家の原型として分析します。続いて、イスラーム法と国家・社会との関係について、伝統的な国家と近現代国家を比較しながら検討します。さらに近現代にいたって、イスラーム政治運動が台頭し、一部は過激な運動に発展していった背景と原因を考察します。イスラームと西欧的民主主義との関係についても検討します。その後、現代中東の重要課題であるイスラーム以外の宗教マイノリティ問題とパレスティナ問題・ユダヤ人問題をとりあげます。最後に「アラブの春」後の激変した中東の政治情勢の現状を、四つの大国（エジプト・サウジアラビア・イラン・トルコ）を軸にして考察します。各回の講義では、受講生から提出された質問や問題点について講師と受講生で質疑や討論を行なう時間もとりまします。

各回の講義テーマ

- 第1回：イスラーム国家の原型—ムハンマドの思想と「コーラン」—
- 第2回：イスラーム法と国家—伝統的な国家体制から近代国家体制へ—
- 第3回：イスラーム政治運動—近現代における宗教復興の意味を考える—
- 第4回：宗教マイノリティの歴史と現状—中東諸国の宗教的多元性—
- 第5回：パレスティナ問題とユダヤ人問題—中東戦争の歴史と現状—
- 第6回：中東の政治情勢の現在—エジプト・サウジアラビア・イラン・トルコ—

担当コーディネーター

上智大学 外国語学部 ボルトガル語学科 教授

矢澤 達宏



予定講師陣

- 真城 百華（上智大学准教授）
 - 本田 文子（上智大学准教授）
 - 戸田 美佳子（上智大学助教）
 - 矢澤 達宏（上智大学教授）
- ※その他、複数名の講師が登場予定

担当コーディネーター

上智大学 国際関係研究所
特任教授

納家 政嗣



予定講師陣

- 山田 敦（一橋大学教授・副学長）
- 中居 良文（学習院大学教授）
- 永野 隆行（獨協大学教授）
- 保坂 修司（日本エネルギー経済研究所 中東研究センター 研究理事）
- 佐々木 卓也（立教大学教授）
- 前嶋 和弘（上智大学教授）
- 納家 政嗣（上智大学特任教授）

担当コーディネーター

上智大学
名誉教授

私市 正年



予定講師陣

- 堀井 聡江（桜美林大学准教授）
- 三代川 寛子（東京外国語大学特任講師）
- 臼杵 陽（日本女子大学教授）
- 高岡 豊（中東調査会 主席研究員）
- 私市 正年（上智大学名誉教授）

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

**グローバルな視野と
ローカルの視点**

1231 越境する日本文学と美術

日本文化の根元が伝統文化と外来文化との双方から養われているという特徴があり、特に近・現代の日本文学や美術に越境性が満ちた作品が溢れています。海外からの要素を取り入れると同時に、日本の特色も海外へ影響を与え、その双方向の刺激による創作過程で新たな複合性をもつ近・現代の日本文学・美術が生まれました。本講座では、明治以降の越境性の高い文学・美術作品に焦点を合わせて、なぜ世界的に読まれたか・鑑賞されたかを考察し、日本文化の複合性・ハイブリッド性を評価し、日本と世界との境界線をぼやかしながら、その接点を探求します。

各回の講義テーマ

- 第1回：旅する漱石
- 第2回：岡倉覚三とボストン美術館
- 第3回：東京―1945年以降の写真・建築・美術
- 第4回：東京―1945年以降の写真・建築・美術
- 第5回：世界の日本映画
- 第6回：越境する現代日本（語）文学

1133 21世紀における「グローカリズム」と持続可能性：

**日本列島におけるレジリエンス及びダイナミックな
順応的管理の可能性を探る**

日本の地域イニシアチブは世界の持続可能性にどのような貢献をできるでしょうか。本講義では日本に注目します。日本人に日本を語ってもらうのではなく、本講義ではあえて日本の大学に拠点を置く外国人の専門家にその経験や見解を共有してもらいます。「日本」の専門家として国内外で活躍する講師陣は、国内のみならず国際的な視点も示すことができます。多様な視点の共有により、参加者の間で活発な議論が促されることを期待します。

各回の講義テーマ

- 第1回：「グローカリズム」とは？グローカリズムが21世紀の持続可能性の鍵になりうるのはなぜか？
- 第2回：日本列島が直面する持続可能性の課題に対する「島」発の解決策
- 第3回：地域イニシアチブに発想を得た世界の動き
- 第4回：21世紀の日本の職場や社会における多様性と共生
- 第5回：「人間の命を支える」海洋に特化したマルチステークホルダーの協働関係の構築
- 第6回：現場より「リハビリテーション」と「レジリエンス」の事例

1242 多文化共生社会論

2018年12月に入国管理法等が改正され、2019年4月に施行されました。この改正によって多くの外国人労働者やその家族が長期間日本国内で生活を営むようになってくるでしょう。多文化社会となりつつある日本が直面する産業、教育、医療等の現場における諸問題について、国連が掲げる持続可能な開発目標（SDGs）と関連して紹介し、具体的な解決策を考えます。

また、心身障害者等のマイノリティと呼ばれる人々が直面する社会的問題と心理的問題について、精神医学や障害学の視点から、それぞれ理解を深めます。どんな世界でも、マイノリティが直面する課題として偏見やそれに基づく差別がありますが、偏見や差別がどのようなメカニズムで形成されるのかについて心理学の立場から解説し、解消法の実例を紹介します。最後の総括では、これまでに学んできたことを基に、今後の日本社会の在り方について自由闊達に議論したいと思います。

各回の講義テーマ ※ 講義テーマの順番は変更の可能性があります。

- 第1回：SDGsと多文化共生社会
- 第2回：障害学（disability studies）の基本
- 第3回：障害者とスポーツ―パラリンピック開催の意義
- 第4回：外国人労働者のメンタルヘルス―多文化精神医学からの理解と支援
- 第5回：差別と偏見の心理学―なぜ人は差別するのか
- 第6回：総括

担当コーディネーター

上智大学 国際教養学部 国際教養学科
教授

ユー・アンジェラ



予定講師陣

- 村井 則子（上智大学准教授）
- 林 道郎（上智大学教授）
- 河野 至恩（上智大学准教授）
- ユー・アンジェラ（上智大学教授）

担当コーディネーター

上智大学大学院 地球環境学研究科
教授

まくどなと あん



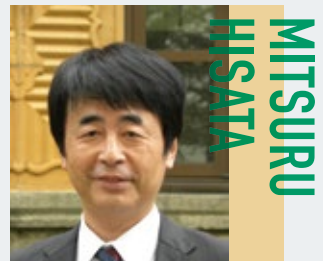
予定講師陣

- ジャッキー・スティール（ジェンダー・多様性を専門とする社会学者）
- シルバン・アゴスティニ（筑波大学助教、海洋生態学・気候変動の世界的リーダー）
- まくどなと あん（上智大学教授）

担当コーディネーター

上智大学 総合人間科学部 心理学科
教授

久田 満



予定講師陣

- 田中 治彦（元上智大学教授）
- 戸田 美佳子（上智大学助教）
- 島 健（上智大学教授）
- 阿部 裕（四谷ゆいクリニック院長）
- 久田 満（上智大学教授）

**良質な社会に向けた
責任とアクション**

良質な社会に向けた 責任とアクション

講座 番号1243 現代社会におけるCSRの在り方 ～環境法の視点から～

企業活動と環境法といえば、これまでは、規制基準へのコンプライアンスのみが中心となっていました。たしかに、産業廃棄物の不法投棄や工場排水の基準違反が報道されると、その企業には、大きな社会的ダメージが発生します。このため、企業は、環境法令遵守に相当の注意を払ってきましたが、ともすればそれは、工場・事業場における最低限度の取組みにとどまる傾向がありました。「必要以上の取組み」を、マイナスと評価する企業もあります。しかし、そのような発想しかできない企業を、投資家はマイナス評価するようになってきています。企業は、社会というより大きな枠組み・コンテキストのなかで、自社の発展を考えなければならないのです。

本講座においては、社会的存在である企業の環境活動のあり方を、環境コンプライアンス、CSR(企業の社会的責任)、SDGs(持続的発展目標)、ESG(環境・社会・ガバナンス)というコンセプトのもとで検討し、具体的にどのような意思決定体制を整備してどのような措置を講じるべきなのかを検討します。ひとつの企業は、顧客、従業員、地域コミュニティ、同業他社、機関投資家、環境団体など、さまざまなアクターの「眼」のもとにあります。講義や討論を通じて、それぞれの企業にとっての方向性を探しましょう。

各回の講義テーマ

- 第1回:環境行政の最前線:プラスチック資源戦略について
- 第2回:ISOグリーンファイナンス関連規格の最新動向
- 第3回:改正土壌汚染対策法と今後の動向
- 第4回:生物多様性と環境法
- 第5回:環境マネジメントシステムの活動状況と今後の課題
- 第6回:統合報告書の最新動向

講座 番号1142 企業のCSR戦略

この講座はすでにCSRを事業戦略として受け入れているかまたそうした計画を持っている企業の幹部候補者及びCSR担当者を対象としています。戦略的なCSRから得られるビジネス上のメリットから幅広いステークホルダーとの効果的な関係の構築を含むCSR戦略のデザインと実施に焦点を当てた講座です。企業がビジネスの社会貢献に努力したつもりが、とすると逆に企業の評判を落とし、規制当局、社会投資家、NGOやキャンペングループからのさまざまな追及を逃れようとする企業による広報活動と見なされる場合があります。当講座ではこれを、逆に、企業の評判・販売・生産性の向上などビジネスプロセスを改善し、財務上の利益をもたらす企業価値を高める機会を与えてくれます。CSRの範囲が拡張する中で、CSRは戦略の基礎となりつつあります。そうすることによりビジネス、政府、市民社会、国際機関、個人が現在直面している課題を理解し、ビジネスと幅広いステークホルダーの間の進化する関係についての重要な分析と見通しを、具体例をあげながらビジネスモデルとして提供することを目的とします。

当講座は、社会におけるビジネスの進化のプロセスを理解し、CSRに取り組む理由と方法を具体例を通して学び、効果的なCSR戦略のデザインと実地方法を習得し、従業員や消費者、政府機関、一般市民、非政府組織を含む利害関係者の重要性を理解し、CSR戦略を総合的に理解していただける講座です。(全クラスに日英同時通訳あり)

各回の講義テーマ

- 第1回:CSRの歴史的背景・持続可能な発展と社会におけるビジネスの役割
- 第2回:CSRのビジネスケース:グローバルサプライチェーン
- 第3回:CSR戦略の企画と実施
- 第4回:CSRの管理・評価・コミュニケーションとその限界
- 第5回:ステークホルダーアナリシスとエンゲージメント:株主、従業員と消費者
- 第6回:CSR、社会的課題と持続可能な成長

講座 番号1244 マジョリティの特権を考える: 真のインクルージョンの実現のために

人は誰でもマジョリティ性とマイノリティ性のアイデンティティを持ち合わせていますが、マジョリティ性を多く持つ人は自分の特権(劣なくして得る優位性)になかなか自分自身で気づくことができません。自分の特権に無自覚な人の多くは、社会的不平等とはマイノリティ側を不利な立場にするものだと思えたととしても、マジョリティ側を優遇するものだという捉え方はしません。真の意味でダイバーシティとインクルージョンを実現するためには、今まで不問にされてきたマジョリティ側の特権や心理的特徴(態度・心理・行動・成長)に焦点を当て、特権を持つ側の責任と課題に迫る必要があります。内容としては、差別に「中立」は存在するか?「平等(Equality)」と「公正(Equity)」の違いやマジョリティとマイノリティのアイデンティティ発達理論を取り上げます。

各回の講義テーマ

- 第1回:特権の概念を学ぶ
- 第2回:白人特権
- 第3回:社会階級特権
- 第4回:男性特権
- 第5回:異性愛者・シスジェンダー特権
- 第6回:特権を持つ側の責任と課題

担当コーディネーター

上智大学 法学部 地球環境法学科
教授

北村 喜宣



予定講師陣

- 小澤 英明(弁護士)
- 及川 敬貴(横浜国立大学教授)
- 後藤 敏彦(サステナビリティ日本フォーラム代表理事)
- 環境省担当者
- 北村 喜宣(上智大学教授)

担当コーディネーター

上智大学 グローバル教育センター
特任教授

浦元 義昭



予定講師陣

- イオアナ ブルータ(ロンドン大学パークベック校准教授)
- 浦元 義昭(上智大学特任教授)

担当コーディネーター

上智大学 外国語学部 英語学科
教授

出口 真紀子



予定講師陣

- 水木 理恵(福島県立医科大学県民健康管理センター助手)
- 上杉 聡(関西大学講師)
- 中村 正(立命館大学教授)
- 出口 真紀子(上智大学教授)

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

良質な社会に向けた
責任とアクション

講座番号 1141 病とともに「生きる」を支える

生涯で「がん」に罹患する確率は、男性62%、女性47%といわれています。また、生涯で「がん」で死亡する確率は、男性25%、女性15%となっています。がんはすっかり身近な病気となりました。その「がん」の治療の進歩は目覚ましく、不治の病から慢性疾患への位置づけを変えてきています。ただ、治療が進歩したのは比較的最近のことですので、その治療の長期にわたる影響が注目を集めてきています。特に、身体や脳の成長過程にある小児がんの患者さんの晩期合併症の問題に取り組むのは、喫緊の課題だと言われています。この講義では、そのようながんの治療に取り組む子どもとその家族の問題について考えてみたいと思います。また壮年期の親ががんにかかったときには、社会人としてご本人の支援を考えながら、その家族、特に子どもの支援にも心を砕く必要があります。第一線のビジネスマンにとって、今一度家族や家庭を振り返り、正面から向き合う機会にもなることでしょう。

*数字は全て国立がん研究センターがん情報サービス

https://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/index.html

各回の講義テーマ

- 第1回：がんとは何か
- 第2回：小児期にがんを患うことの影響：晩期合併症の問題
- 第3回：病とともに生きることにおける学校の意味
- 第4回：病とともに生きることと働くこと：がんと就労（仮題）
- 第5回：社会参加への壁を低くするために：アピアランスケア
- 第6回：がんの親を持った子どもの支援

講座番号 1241 教養としてのジェンダー：

国際潮流から考える「ビジネスとジェンダー」

日本の男女格差（ジェンダー・ギャップ）が国際的に大きいことは、広く知られていますが、なぜ大きいのでしょうか？格差を縮小するにはどうしたらいいのでしょうか？諸外国ではどのような取り組みが効果をあげているのでしょうか？本講座は日本のジェンダー・ギャップを切り口に、ジェンダー平等に関する基本的な事項を押さえていきます。そして、SDGsの枠組みの中で世界はどのような女性のエンパワメントを目指しているのか、なぜ企業広告はいましばしばジェンダーの観点から炎上してしまうのか、企業の常識と世間の常識はどう違うのか、なぜG7がジェンダーに力を入れるのを探っていきます。さらに、女性活躍において共通点の多い韓国と日本を比較しながら、日韓関係をジェンダー視点で振り返ります。最後は女性リーダーの育てかたについて参加者と議論をします。

各回の講義テーマ

- 第1回：世界が目指す女性のエンパワメントとSDGs
- 第2回：日本のジェンダー・ギャップを解消するには
- 第3回：グローバル・イシューとしてのジェンダー平等（国連機構、G7を中心に）
- 第4回：ジェンダーでなぜ広告が炎上するのか
- 第5回：ジェンダー視点で考える日韓関係
- 第6回：女性リーダーをどのように育てるか

講座番号 1143 ソシオ・エコシステムの社会科学

アメリカのIT産業では、エコシステムという用語が広く用いられています。海や空や川があって、豊かな森や土壌があり、日の光が降り注ぐ中で、環境に適した生物が生まれ、育ち、次の世代へと引き継がれていく。シリコンバレーに代表されるアメリカのIT産業はそれと同じようなシステムに支えられているというわけです。

さまざまな人間の営みを支える社会経済も同じです。質の高い市場があって、それを支える法律や制度があり、優れた判断力、洞察力、好みに導かれ、さまざまな技術が生み出され、経済活動が営まれ、次の世代に引き継がれていく。明るい将来が見いだせる充実した生活を営むためには、そういうソシオ・エコシステムが不可欠です。本講義では、質の高い市場とは何か、どんな法や制度がそれを支えるのか、エコシステムを支える判断力、洞察力、好みとはどんなものか、を社会科学的視点から明らかにし、健全なソシオ・エコシステムのデザインを考えます。

各回の講義テーマ

- 第1回：迂回原理と社会科学的素養
- 第2回：取引と契約
- 第3回：不確実性と損害賠償
- 第4回：市場の質のダイナミクス
- 第5回：ニーズからシーズへ向けたイノベーション
- 第6回：市場の質とソシオ・エコシステム

担当コーディネーター

上智大学 総合人間科学部 心理学科
教授

横山 恭子



予定講師陣

- 桜井 なおみ（キャンサー・ソリューションズ株式会社代表取締役社長 社会福祉士 精神保健福祉士 産業カウンセラー）
- 副島 賢和（昭和大学大学院准教授）
- 野澤 桂子（国立研究開発法人 国立がん研究センター 中央病院 アピアランス支援室長、臨床心理士）
- 小林 真理子（放送大学教授、臨床心理士）
- 小児がんの晩期合併症に詳しい医師、もしくは、看護師
- 横山 恭子（上智大学教授）

担当コーディネーター

上智大学 法学部 地球環境法学科
教授

三浦 まり



予定講師陣

- 大崎 麻子（ジェンダー・アクション・プラットフォーム理事、関西学院大学客員教授）
- 林 陽子（弁護士、元国連女性差別撤廃委員会委員長）
- 治部 れんげ（ジャーナリスト）
- 申 瑛瑠（お茶の水女子大学准教授）
- 三浦 まり（上智大学教授）

担当コーディネーター

上智大学
特任教授

矢野 誠



予定講師陣

- 矢野 誠（上智大学特任教授、京都大学特任教授、経済産業研究所所長）

科学から読み解く 社会像

講座番号 1251 先進技術と基礎科学

～意思決定の依拠を考察する～

現代社会のいたるところに先進技術が使われています。その背後には基礎科学の原理(例えばエネルギーの保存則)があり、それを理解することで、なぜある技術が実現されていて別の技術は実現できないのかわかります。また、基礎科学の原理を知っておくことは重要な意思決定を行う際にも欠かせず、実際、参考文献に挙げた「Physics for Future Presidents(わたしなりに訳すと、「未来の大統領が知っておくべき物理」)」は非常に好評です。例えば、化石燃料がなぜこのように好まれるのかはエネルギーを計算することで簡単にわかります。また、光の速さが有限だと知っておくと、コンピュータの計算スピードや情報の伝達に原理的制限がかかることが自然とわかります。この授業では、先進技術の背後にある基礎科学を解説し、基礎科学の理解に基づき意思決定ができることを目指します。参考文献: Physics for Future Presidents: The Science Behind the Headlines, R.A. Muller, W W Norton & Co Inc (和訳:リチャード・ムラー 著, 二階堂 行彦 訳 (2010): 今の世界を生きているあなたのためのサイエンス I, II. 楽工社)

各回の講義テーマ

- 第1回: エネルギーと科学技術、現代社会
- 第2回: 量子物理、相対性理論による現代技術とその限界
- 第3回: 化学の原理から現代技術を読み解くI
- 第4回: 化学の原理から現代技術を読み解くII
- 第5回: 生命科学の原理から現代技術を読み解く
- 第6回: 科学技術と社会の未来をここ150年の歴史をもとに考察する

講座番号 1152 現在・過去・未来をつなぐ生命科学概論

遺伝子組換えとゲノム編集、iPS細胞、オプジーボ、腸内細菌と病気、あるいはCTスキャン、MRI、重粒子線治療など、日々のニュースや報道の中でも生命科学に関わる内容が数多く取りあげられています。先端研究は驚くべきスピードで進歩しており、そこにはビジネスチャンスも数多く含まれていると考えられます。科学、特に生命科学の研究は一つの研究室の中に閉じられたものではなく、その成果は我々の日常生活に密接に繋がるものであり、またそこに国境はありません。このことは何を意味するか? 私たちがこれからの社会のあり方に対してより正しい判断、意思決定をしていくためには、これらの日進月歩の研究内容を理解し、生命科学が私たちに何をもたらすのか、私たちの未来をどのように変えていくのかを考え、使いこなす力が求められています。本講座では、先端生命科学の研究の内容の基礎を解説するとともに、その技術がもたらす社会の変革に対していかに判断し、意思決定をしていくのかを科学史に残る過去の事例をもとに考えます。また、スカイプを利用して海外にいる研究者との意見交換も行います。

各回の講義テーマ

- 第1回: 現代社会の中の生命科学: 「社会化された科学」
- 第2回: 過去に学ぶ生命科学: 分子生物学の始まり
- 第3回: 現代へとつながる生命科学: ゲノム科学
- 第4回: 現代の生命科学: 基礎科学とリソース
- 第5回: 物理学の原理から読み解く生命科学
- 第6回: 過去と現在から考察する未来の科学

講座番号 1252 AIの未来とビジネス

近年のAI技術の進歩は、ユートピア論・ディストピア論が語られるまでに注目を浴び、第三回目のAIブームを迎えました。第二回目のAIブームは1980年代にピークを迎え、1990年代以降は冬の時代と呼ばれました。日本ではブームの盛り上がりで冬の時代の反動が特に強く、アメリカでAIブームが起こる2012年ごろまでAIという用語が復権することはありませんでした。しかしアメリカではその間、後にAIブームをもたらす技術的ブレークスルーの数々に対して、研究開発のための投資が継続的に行われていました。そして現在、AIに対して莫大な研究開発投資を行っているのが、巨大IT会社に成長したFANNG (Facebook, Amazon, Netflix, Nvidia, Google) です。これらの会社は現在、独占禁止法の観点から各国で規制の動きが始まっており注目ですが、第三回目のブームが終わりを迎えても、米国では間違いなくAI技術の研究開発が続いていきます。現在はSNSの発達のおかげで、研究者コミュニティを中心に研究開発プロジェクトやその成果に関するニュースが日々世界を巡ります。本講座では、AI、IoT、Bigdataについて最先端のグローバル技術動向をお伝えし、社会展望と未来のビジネスへの着想を促します。

各回の講義テーマ

- 第1回: AIと新しい物理法則
- 第2回: AIとマテリアルサイエンス
- 第3回: 通信とAI
- 第4回: 産業とAI
- 第5回: 深層学習による画像認識技術
- 第6回: AIという数奇な学問の歴史と未来

担当コーディネーター

上智大学 理工学部 機能創造理工学科 教授

大槻 東巳



予定講師陣

- 早下 隆士 (上智大学教授)
- 齊藤 玉緒 (上智大学教授)
- 大槻 東巳 (上智大学教授)

担当コーディネーター

上智大学 理工学部 物質生命理工学科 教授

齊藤 玉緒



予定講師陣

- 大槻 東巳 (上智大学教授)
- 齊藤 玉緒 (上智大学教授)

担当コーディネーター

上智大学 理工学部 情報理工学科 准教授

矢入 郁子



予定講師陣

- 勝本 信吾 (東京大学教授、日本物理学会副会長)
- 浦本 直彦 (株式会社三菱ケミカルホールディングス、人工知能学会会長)
- 原井 洋明 (情報通信研究機構 研究開発推進センター長)
- 村川 正宏 (産業技術総合研究所 情報技術研究所 門副研究部門長)
- 柳井 啓司 (電気通信大学教授、人工知能先端研究センター)
- 矢入 郁子 (上智大学准教授、前人工知能学会理事)

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

科学から読み解く
社会像

交渉のための
論理と批判

講座番号 1253 第四次産業革命を支える技術と社会

デジタル・データ、AI(人工知能)、IoT、ブロックチェーンといった新しい情報通信技術に支えられ、第四次産業革命と呼ばれる大きな社会変革が起こりつつあると考える人が増えています。同時に、ここ20年間のインターネットの爆発的な発展により、金融システム、データ独占、シンギュラリティーなど、社会のさまざまな部分で歪みが蓄積し、新たな歪みのたねも生まれつつあります。その中で、私たちは、どのようにして新しい技術と向き合っていくらよいのでしょうか。アメリカのICTエンジニアたちの間では、調和のとれた社会と技術の総体が「エコシステム」と呼ばれ、IT産業を支えるのに不可欠とされています。今、必要なのは、これを社会全体に広げ、技術と人が共生し、さらなる発展を生み出すソシオ・エコシステムを構築することでしょう。本講義では、この問題をデータの独占と所有権、ブロックチェーンによるIoTデータの利活用、未来のデジタル通貨の役割、デジタル資産の新しいビジネスといった観点から検討します。

各回の講義テーマ

- 第1回：第四次産業革命 — 金融危機、データ独占・悪用、AIとシンギュラリティー
- 第2回：ブロックチェーンと暗号技術
- 第3回：データの利用とブロックチェーン
- 第4回：紙幣とデジタル通貨
- 第5回：金融危機とデジタル資産
- 第6回：サイバー・エコシステムの構築

講座番号 1151 グローバル化時代の開発目標達成のための

科学技術イノベーション(STI for SDGs):理論と実践

『人から学ぶ』この言葉はニューヨーク大学大学院に留学中、当時の指導教授から言われた言葉です。その教授が意味するのは、大学や大学院で学んで得る知識ではなく、人と関わりあって得る智です。グローバル化や持続可能な開発目標達成のための科学技術イノベーション(STI for SDGs)が求められている現代社会において生き残るためには、知識の他に、異文化への理解・他分野との協働・独自性を総合的に兼ね備え、社会に適應していくことが必要です。本講座では、世界的視野と異文化への理解を兼ね備え、様々な分野に精通し、人生の成功を収めた講師陣が、これまでのご自身の経験を通して培った智を独自の視点で提供するとともに、受講生とのディスカッションや演習を通し、受講生がグローバル化時代における独自のSTI for SDGsについて主体的に考え、実践できることを目指します。

各回の講義テーマ

- 第1回：「STI for SDGs: 科学技術を社会にどう実装するのか」 SATREPS、Future EarthからSDGsに至る世界の流れ」2018年安岡講師が国連本部で発表した内容をわかりやすく概説
- 第2回：独自のSTI for SDGsについて受講生によるプレゼンとディスカッション
- 第3回：科学技術外交の現場で学んだこと
- 第4回：ITERに係る国際協力が意味するもの
- 第5回：「持続可能社会のためのポジティブ・デビエンス(ポジデビ)・アプローチ」1990年代ベトナムの栄養対策として始まり、その後、世界40か国以上で、国連、NGO、民間企業などによって実践されてきたアプローチを紹介します。なお、このアプローチはSTIというよりもソーシャル・イノベーションの技法です。
- 第6回：日本のポジデビ・アプローチについて紹介するとともに、受講生によるプレゼンとディスカッション

講座番号 1161 交渉学入門：

より良いネゴシエーターとなるための理論とスキル

私たちの生活は無数の交渉から成り立っています。より良い交渉ができることは、大きな強みとなりますし、逆に、交渉力がなければ、どれだけ良い知恵・アイデア・リソース等を持っていたとしても、それらを十分に活かすことは難しくなります。

交渉には、取引先との価格や取引条件の交渉、トラブルを解決するための交渉、組織内での交渉、外交交渉、日常生活での交渉、代理人を介した交渉など、多様なものがありますが、どのような交渉に臨む場合であっても理解しておくべき基本、身に付けておくべきスキルがあります。

本講座では、より良いネゴシエーターとなるために理解しておくべき基本的概念・枠組みやその活用の仕方、交渉を通じて価値を創造し分配するための視点やスキル、より良い交渉に役立つコミュニケーションのためのポイント、交渉に影響を与える人的な要因と対処法、交渉のプロセス、難しい交渉に対処するための手掛かり、多数当事者交渉のポイント等を学びます。

講座は、①理論・枠組み・スキルについての講義、②講義で学んだことを実践するロールプレイ、③参加者間のディスカッション等を組み合わせて講座を進めます。参加者の方々の主体的な参加が求められます。

各回の講義テーマ

- 第1回：より良い準備のための基本的視点
- 第2回：価値の創造と分配
- 第3回：効果的なコミュニケーション
- 第4回：交渉のプロセスと合意
- 第5回：難しい交渉への対処
- 第6回：多数当事者交渉

担当コーディネーター

上智大学
特任教授

矢野 誠



予定講師陣

■矢野 誠(上智大学特任教授、京都大学特任教授、経済産業研究所所長)

担当コーディネーター

上智大学大学院 地球環境学研究科教授

安納 住子



予定講師陣

- 安岡 善文(東京大学名誉教授、元国立環境研究所理事)
- 池田 要(一般財団法人リモート・センシング技術センター理事長、元ITER国際核融合エネルギー機構長、元クワアチア大使)
- 神馬 征峰(東京大学教授、医師)
- 安納 住子(上智大学教授)

担当コーディネーター

上智大学 法科大学院 教授
法学研究科法曹養成専攻主任

森下 哲朗



予定講師陣

■森下 哲朗(上智大学教授)

国際通用性、
創造性を導く
教養講座

**交渉のための
論理と批判**

講座番号 **1261** **質問力を磨く**

～脱・思考停止～

ビジネスは(?)で始まります。社会は何を求めているのか、どう応えたらいいか。時間軸と空間軸の中でつぶさに観察し、分析を重ね、論理的に構成、適切な言語や方法で表現して世に送り出す。その反応をまた観察し……。こうした繰り返しには(?)が不可欠です。変化が速く、経験則では太刀打ちしにくい時代だからこそ、答えが見つからない状態に耐え、問い続ける力が求められています。思考停止していただける余裕は、私たちにありません。教材は、講座当日の読売新聞朝刊を使います。「自分以外の誰か」になりきって新聞を読み、グループの仲間と一緒に質問を作ります。最終的には自分の質問に基づいてレポートを書き、発表もします。「自分以外の誰か」になりきることで、これまでとは違う視野が広がります。授業のアシスタントには、上智大学生たちが当たります。本授業をすでに受講し、たくさんの(?)を抱えている学生たちと一緒に質問力を磨きませんか。

各回の講義テーマ

- 第1回：なぜ今「質問力」か
- 第2回：「自分以外の誰か」になりきる
- 第3回：発想を広げる
- 第4回：伝える・伝わる
- 第5回：チームワークを考える
- 第6回：質問力で楽しむ

講座番号 **1262** **グローバルコミュニケーション・リテラシー**

～グローバル・メディアの変容～

20世紀にグローバルなメディア・システムがどのような歴史的な経緯を経て生成・発展してきたかを踏まえつつ、近年のデジタル・メディアが普及・浸透するなかで、既存のメディア・システム、ジャーナリズムが直面するさまざまな問題や課題について、理論と現場の実例から検証します。その上で、グローバルなデジタル・メディアがシステム形成されつつあるなかで生じている課題と可能性について、日本からの国際発信や、西側先進諸国に拠点を置くメディア・コングロマリットの展開といった実例などを挙げながら、グローバル・メディアのありようについて分析・検証していきます。その上で、現代のグローバル・メディア、グローバルコミュニケーションに求められるリテラシーについて考えます。講師には、国際的な報道現場で活躍してきたジャーナリストや、先進主要国のメディア戦略を研究してきたメディア研究者、実際にメディア・コンテンツのグローバル展開に携わってきたメディア事業経営者などに登壇いただき、理論的な視点と実務経験・実践的な視点を踏まえながら、講義を進める予定です。

各回の講義テーマ

- 第1回：メディアのグローバル化がもたらす諸課題
- 第2回：西欧型民主主義とグローバル・メディア
- 第3回：グローバル・メディアと国家
- 第4回：グローバル・ジャーナリズムの可能性と課題
- 第5回：グローバル・メディアとしての日本のポピュラー・カルチャー(1)
- 第6回：グローバル・メディアとしての日本のポピュラー・カルチャー(2)

担当コーディネーター

上智大学
特任教授

松本 美奈



予定講師陣

■松本 美奈(上智大学特任教授、一般社団法人Qラボ代表理事、元読売新聞専門委員)

担当コーディネーター

上智大学 文学部 新聞学科
教授

音 好宏



予定講師陣

■国際通信社・論説委員
■国際放送会社幹部
■国際ジャーナリスト
■国際エンターテインメント企業幹部
■大手放送事業者海外展開部門幹部
■音 好宏(上智大学教授)

**スペシャリスト
養成講座**

講座番号 **2201** **国際会計**

～IFRSの会計情報とグローバル企業の財務分析～

近年、企業を取り巻く経営環境は、経営活動のグローバル化の進行やIT事業の発展などにより、大きく変動しています。その流れは、証券市場における企業の会計情報の開示にも及んでおり、企業は自国の会計基準から、グローバル・スタンダードであるIFRS(国際会計基準)に準拠した情報開示にシフトしており、その傾向は加速しています。このような背景をふまえ、本コースでは、前半では、わが国の会計基準(日本基準、日本GAAP)からIFRSへのシフトに伴う証券市場への影響について、日本のSPA(Specialty store retailer of Private label Apparel: 製造小売業)の先行企業であるファーストリテイリングを取り上げてその実態分析を行います。後半では、グローバル企業、特に近年注目度の高いIT事業に焦点をあて、日本企業については、ソフトバンク、米国企業については、GAFA(Google, Apple, Facebook, Amazon)、中国企業については、BATH(Baidu, Alibaba, Tencent, Huawei)の実態分析を通じて、グローバル市場における日本企業と世界各国の企業との競争力の比較をし、日本企業の将来性について分析を行うことを目的とします。

各回の講義テーマ

- 第1回：グローバル企業におけるIFRS適用の意義
- 第2回：グローバル企業の経営戦略と財務戦略
- 第3回：日本基準からIFRSへのシフトの影響：ファーストリテイリングの実態分析
- 第4回：IT事業のケース・スタディ①：日本(ソフトバンク)の実態分析
- 第5回：IT事業のケース・スタディ②：米国(GAFA)の実態分析
- 第6回：IT事業のケース・スタディ③：中国(BATH)の実態分析
- 第7回：グローバル企業のCFOによる講演
- 第8回：日本・米国・中国のグローバル企業の成長戦略の比較と将来性分析

担当コーディネーター

上智大学 経済学部 経営学科
教授

西澤 茂



予定講師陣

■第7回ゲスト・スピーカー：
大西 秀亜(元株式会社ファーストリテイリングCFO、合同会社インテグリティ共同代表)
■西澤 茂(上智大学教授)

スペシャリスト 養成講座

講座番号2202 企業価値を創造するESGと統合報告の最先端

近年、ビジネスリスクや企業価値の創造において非財務要因が投資の意思決定を行う際の重要課題として認識されています。投資家と企業がESG(環境・社会・統治)をどう捉えているか、その有用性と有効性は、非財務要因がいかに財務的パフォーマンスに影響を与えているかなどESGに関する関心が高まっています。EUは2014年その指令により非財務情報の開示を義務化しました。日米欧と地域差はあるものの、ESGに対する関心は急激に強まっており、非財務情報をインテグレートした統合報告書は投資家とのコミュニケーションに有効な手段と考えられています。この講座では、GCNJ(グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン)の協賛のもと英国レディング大学ヘンレイ・ビジネス・スクール及びバーミング大学から専門家を講師として招聘し、日本でのパートナーとしてEY Japanの気候変動・サステナビリティサービス(CCaSS)から講師派遣の協力も得ています。受講者は、統合レポート作成に従事する企業の実務担当の幹部および候補者とCSR/ESG責任者を対象とし、この講座を通じて企業価値を創造するESGと統合レポートに関する最先端の知識、情報を修得し、自社のESG評価・分析能力を向上させること、そして統合報告作成に関する技術を得ることができるように進めます。

各回の講義テーマ ※5日間で全8回開講

第1日目: フリードマンからSDGsまで

第2日目: 自社への影響はあるのか?

第3日目: Wall Street ルールからアクティブ・オーナーシップ: 投資家と投資先会社の役割

第4日目: 統合報告の作成

第5日目: 統合ケーススタディ: ESG課題・既存のビジネスモデルの分析・持続可能なモデルの作成

講座番号2101 人を動かす究極の交渉・コミュニケーション術:

“納得”の導き方

「あれ、ちゃんと合意したのに相手がいつまでも合意内容へのコミットメントをしてくれない」「いいアイデアはあるのだけれど、どう説明したら周りの人たちからサポートを得られるのだろうか」「どうすれば、自分の言いたいことを相手に的確に伝えることができるのか」日々のお仕事や生活の中で、そのような悩みをお持ちではないでしょうか。交渉とは、結果を伴うコミュニケーションであり、「自分が欲しいものを手に入れるために行う」行為です。それは、つまり、「相手から、あるいは相手と共に、欲しいものを手に入れること」を意味します。そのプロセスにおいて、恐らく相手との対立は避けられないかと思いますが、いかに無駄な傷を負うことなく、自分の欲しいものを手に入れるために、その対立にどう関わるべきかを知っておくことはありません。本講座では、「交渉において自分が目指すゴールをいかに効率的に手に入れることができるか」、そして「いかにして自らの目的の達成を、当事者間の納得の下、行うことができるのか」というリーダーのための究極の交渉・コミュニケーション術を理論と実践を通して身につけることを目的としています。ケーススタディを通じて、より実践に近い交渉を実際に体験していただきつつ、明日からすぐに使うことができる“交渉における行動心理に基づいたテクニック”を身につけていただきます。

各回の講義テーマ

第1回: 究極の交渉・コミュニケーション術とは? —AI時代を生き抜くために必須のskillと心理

第2回: 究極の交渉・コミュニケーション術とは?(2)

第3回: ケーススタディ(1) —1vs.1の交渉シミュレーション

第4回: 交渉における実務的なテクニックと交渉心理(1)

第5回: 交渉における実務的なテクニックと交渉心理(2)

第6回: ケーススタディ(2) —チームで行う交渉シミュレーション: マルチイシューの交渉

第7回: Crisis Negotiation —ニッチもさっちもいらない時の対処法

第8回: まとめ

担当コーディネーター

上智大学 グローバル教育センター
特任教授

浦元 義照



予定講師陣

- グンナー・リメル(レディング大学ヘンリー・ビジネススクール教授)
- クリストフ・ビエル(バーミンガム大学講師)
- 牛島 慶一(EY新日本有限責任監査法人 プリンシパル/気候変動・サステナビリティサービス(CCaSS)リーダー)
- 松本 千賀子(EY新日本有限責任監査法人/気候変動・サステナビリティサービス アソシエイトパートナー)
- 引間 雅史(上智学院経営企画担当理事)
- 浦元 義照(上智大学特任教授)

担当コーディネーター

上智大学 法科大学院 教授
法学研究科法曹養成専攻主任

森下 哲朗



予定講師陣

- 島田 久仁彦
(株式会社KS International Strategies代表取締役社長CEO、元国際連合紛争調停官)
著書『交渉プロフェッショナル: 国際紛争の修羅場から』(NHK出版)、『最強交渉人のNOをかならずYESに変える技術』(かんき出版)
- 森下 哲朗(上智大学法科大学院教授)

社会展望力を 醸成する

スペシャルトーク

各分野の専門家や著名人を招き、グローバル経済の動向、国際関係の行方など、グローバル関連の課題を紐解きます。

※開催内容はWebサイトにて随時公表

過去に開催した特別講演会(例)

グローバル課題
～『人間の安全保障』の役割～
アントニオ・グテーレス第9代国連事務総長



2016年 米大統領選と日米関係の行方、
ジョセフ・ナイ白熱討論

ハーバード大学
ジョセフ・ナイ特別功労教授



Message from Program Adviser

プログラムアドバイザー メッセージ

一般社団法人Japan Innovation Network代表理事
バーンホールディングス株式会社 社外取締役
上智大学特任教授

西口 尚宏

世界中の人々がデジタルに繋がった世の中で、人類史上初めての共通目標SDGsが193カ国の合意のもとで設定されるなど、世界中で人々の価値観や行動、ビジネスの仕方がドンドンと変化しています。デジタル化の進展で世界に共通言語・体験が増える一方、世界には多様な価値観、文化、宗教観があることも益々明らかになっています。多様なバックグラウンドを持った人々との対話を通して、新しい価値を世に生み出している実践者を備えた人材が今後必要とされる時代はありません。

PROFILE

上智大学経済学部卒、ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院卒(MBA)。日本長期信用銀行、世界銀行グループ人事局(ワシントンDC)、マーサー社(ワールドワイドパートナー)、産業革新機構 執行役員等を経て現職。



アライアンス・バーンスタイン株式会社
前代表取締役会長
UCバークレー校ビジネススクール理事
上智大学特任教授

山本 誠一郎

世界的に変化の激しい時代。ビジネスマンは理念と成果の両立に日々頭を悩ませているかと思います。「歴史は韻を踏む」。世界の出来事のほとんどは、韻を踏むように形を変えながら繰り返しているともいわれます。哲学や歴史などリベラルアーツから普遍的な価値を学び、現代に通用する実践智を身につける。このプログラムはまさに「アスペン研究所」のキャンパス実践版。東京の真ん中という好立地で、対話を通じて包括的に「智」を学べる機会は貴重だと思います。

PROFILE

慶應義塾大学経済学部卒、UCバークレー経営大学院卒(MBA)。1985年安田信託銀行入社。1999年米アライアンス・バーンスタイン社入社。本社パートナー、日本法人CEO、会長を歴任。2019年から日米で起業家支援を開始。



上智大学特任教授

日比谷 武

大転換期の今、組織や個人が、持続的成長に向け、変化に対応する一方、国際社会の信頼を得る為に、経済・社会・人間性のバランスが重要です。人としてより善く生きる。と同時に実践者・組織の先導者の使命としてあるべき方向に導く。教養を深め、人間的魅力を高める。人間や社会に対する哲学的思考や倫理観を大切により高い視座、本質を追究する洞察力と行動力が望まれます。産学連携の場で、古典に触れ、深い対話や思索で学問の追究と躬行実践は有意義と確信します。

PROFILE

富士ゼロックス(株)で人事やCSRの役員、監査役を歴任。元同社会長・経済同友会代表幹事小林陽太郎氏の内外の活動を補佐。日本アスペンの設立・運営に参画。現在、経済同友会幹事、文部科学省大学審議会委員。



MSCI Inc. 北アジア代表
アジア太平洋地域業務執行委員
上智大学特任教授

長澤 和哉

日々の業務に邁進する中で、手を止めてみる。異業種の仲間たちと世界を広げ、視点を高くし、洞察力を深める。経済リスク、環境リスク、社会リスク、地政学リスク、テクノロジーリスク等々、まさに多様なグローバル・リスクとグローバル・ビジネスチャンスの時代。だからこそ必要とされる幅広い実践智の習得。次はどこへ向かうべきなのか?当プログラムを終え業務に戻るとき、目指すべき水平線が見えるはず。

PROFILE

慶應義塾大学大学院理工学研究科修了(理学修士)。MSCI(旧モルガンスタンレー・キャピタルインターナショナル)にて日本および韓国ビジネスを統括。それ以前は、ゴールドマンサックス資産運用部門にてGlobal Quantitative Investment Strategyグループのマネージングディレクター。



一般社団法人Qラボ代表理事
元読売新聞専門委員
上智大学特任教授

松本 美奈

変化し続ける時代に突入しました。次世代を世界に送り出す大人として、立ち止まることは許されません。昨日までの常識を疑い、自分は思考停止していないかと疑い、どんな明日を創造してバトンタッチするかと問い続けていくことが求められています。昨日までの常識とはどんなものでしょうか。何を誰に問うたらののでしょうか。私たちはどこに向かっていくのでしょうか。「大いに疑えば大いに進むべく、少しく疑えば少しく進むべし、疑はざれば進まず」(貝原益軒)。一緒に考えていきませんか。

PROFILE

慶應義塾大学法学部卒、一般社団法人Qラボ代表理事、ジャーナリスト、上智大学特任教授、社会保険労務士。読売新聞記者を経て2019年から現職。国立大学法人評価委員会委員、大学改革支援・学位授与機構認証評価委員。主な著書:『異見交論へ進ぶ大学の語る』『特別の教科 道徳Q&A』など。



経済産業研究所所長
上智大学特任教授
京都大学経済研究所特任教授

矢野 誠

社会科学は、単に人や社会のあり方でなく、技術や資源の利用法を考える学問でもあります。今、科学技術は急速に進化しています。その中で、技術の作り手は、使い手の立場に立って、何が必要とされているかを考えなくてはなりません。同時に、使い手には、技術を利用するためのシステム開発が期待されます。そのためには、広く社会科学や人文系の素養を身につけることが不可欠です。本プログラムはそうしたニーズに応え、個々人の思考レベルを大きくギア・アップするために、とても有益な機会を提供するものと期待しています。

PROFILE

東京大学経済学部卒。ロチェスター大学経済学部博士。コーネル大学経済学部助教授、横浜国立大学経済学部教授、慶應義塾大学経済学部教授、京都大学経済研究所教授等を経て、2016年より経済産業研究所所長。2008年度 日本経済学会会長。



アドバイザーパートナー 企業会員 (2019年11月時点)

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、株式会社あおぞら銀行、出光昭和シェル、エーオンジャパン株式会社、株式会社JTB、住友林業株式会社、株式会社セブン&アイ・ホールディングス、第一生命保険株式会社、東海旅客鉄道株式会社、株式会社東洋経済新報社、日本航空株式会社、株式会社フジタ、丸紅株式会社、株式会社明治 ほか(五十音順)



上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

問い合わせ先

プロフェッショナル・スタディーズ事務局(学校法人上智学院 経営企画グループ内)
TEL:03-3238-4617 E-MAIL:prostudies-co@sophia.ac.jp

プロフェッショナル・スタディーズ WEBサイト

<https://www.sophia-professionalstudies.jp>



※ 講座内容や担当講師、開講時間等は変更の可能性があります。